

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（7月11日-17日）の新規陽性者数は23,996人（先々週 15,247人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.36 [最小値0.41-最大値1.67]、このうち那覇市は1.34 [0.64-1.65]でした。また、宮古は1.33 [0.43-1.68]、八重山は1.32 [0.88-2.09]でした（図1）。全県において感染拡大が続いています。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部 1,328人（先々週 857人）、中部 8,910人（先々週 5,382人）、那覇市 4,355人（先々週 2,754人）、南部 6,347人（先々週 4,209人）、宮古 874人（先々週 572人）、八重山 2,016人（先々週 1,371人）でした（図2）。とくに、八重山は過去最大を更新しながら、急速な感染拡大が収まりません。

県外からの渡航者は145人（先々週 75人）とこちらも急速に増加してきています。最多の渡航元は東京都の35人で、福岡県 12人、神奈川県 12人と続き、25都道府県に渡ります。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10代 4,328人（18%）と最多であり、10歳未満 3,880人（16%）、30代 3,671人（15%）と続きます（図3）。高齢者を含め、す

べての年代において急速に感染が広がっています（図4）。

入院患者数推移

先週の新規入院患者数は327人（先々週 283人）でした。入院患者数は先週末時点で501人（7月10日時点 394人）と急速に増加しており、このうち酸素投与など中等症患者は220人（7月10日時点 195人）と増加しています。気管挿管など重症患者は4人（7月3日時点 5人）と増えていません（図5）。

先週末（7月17日時点）における確保病床の病床占有率は、北部 67.2%（45/67）、中部 69.5%（116/167）、南部 59.5%（122/205）、那覇 84.7%（83/98）、宮古 18.2%（12/66）、八重山 77.3%（34/44）となっています。なお、重点医療機関の確保病床以外に入院されている87人については除いて計算しています（図6）。

また、7月17日時点で、沖縄県内において救急受入を担っている21の重点医療機関において、医師 57人と看護師 225人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師 74人と看護師 379人が働くことができなくなっています（図7）。現在、急速に休職者数が増加していることから、沖縄県の救急受け入れ能力が大幅に低下しています。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で97施設 655人（7月3日時点 355人）と急速に増加しており、すべての療養者への巡回診療が困難となっています（図8）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、過去最多の流行となっており、感染拡大の勢いは衰えていません。人々の交流や活動が活発になってきていることがありますが、従来のオミクロン株と比して感染力が増したとされる BA.5 への置き換わりが進行していることも影響していると考えられます。

感染拡大のけん引役である子どもたちでの増加が急峻ですが、どの世代でも増加が続いています。これまでの流行と異なるのは、高齢者も同時に増えていることです。これまでは、若者での流行が先行して、高齢者は家庭内などで二次感染をして遅れて波が生じていました。ところが、今回は同時に増えています。全世代的に活動性があがっており、感染予防ができていない可能性があります。

感染の拡大とともに、沖縄県の救急医療がひっ迫しています。とくに夜間の救急外来では、4時間以上の待ち時間が常態化しています。コロナ以外の患者さんの治療も困難な状況となっており、救急外来の感染対策も維持することが難しくなっています。

重症化リスクの低い若年の軽症者については、できるだけ救急受診を避け、日中に近隣の診療所を受診するようにしてください。今年1月以降の50歳未満の感染者193,383人のうち、入院を要したのは1,326人(0.69%)、重症者は16人(0.008%)、死亡は2人(0.001%)でした。基礎疾患や肥満などがない限り、子どもや若者は抗ウイルス薬などによる特異的治療は不要であり、ほとんどの場合、解熱剤など症状を緩和する内服薬のみで軽快しています。

検査を希望される場合には、無症状であれば、県の設置する接触者PCR検査センター、または市中の民間検査機関を受検してください。症状を認める場合には、発症日の翌日以降、市販の医療用抗原検査キットで自己検査することもできます。結果が陽性のときは、抗原定性検査・陽性者登録

センターに報告してください。くれぐれも、検査を目的として救急外来を受診することのないようお願いします。

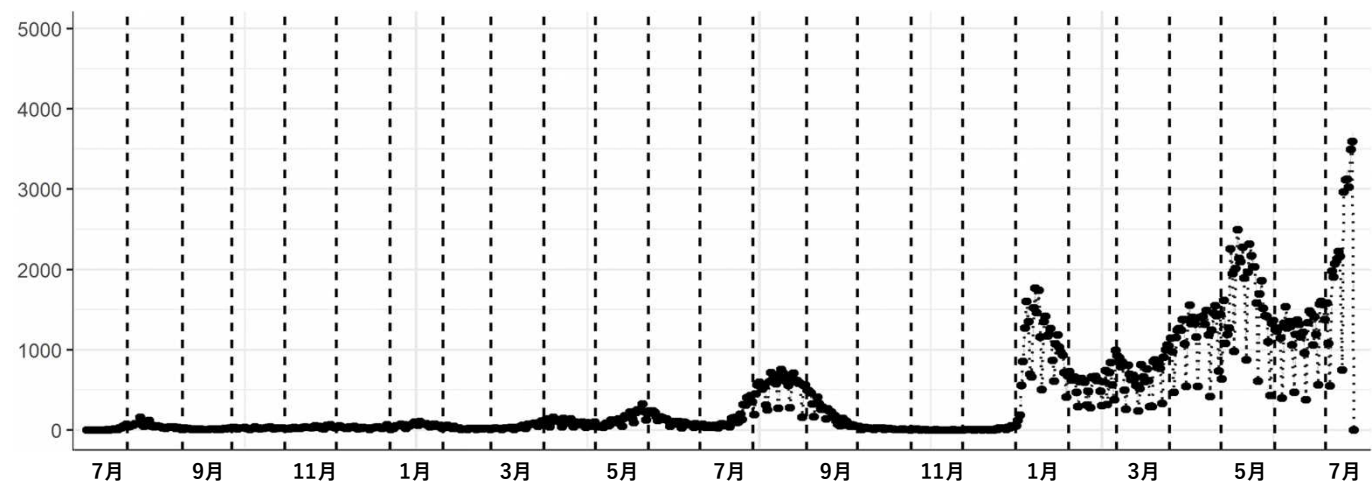
一方、呼吸が早い・苦しい、もうろうとしている、ぐったりとしている、水分や食事がとれない、高熱が3日続いている、顔色が悪いなどの症状を認めるときは、早めに救急外来を受診することをお勧めします。

市中における BA.5 への置き換わりが進んでおり、今週の新規陽性者数は28,000-41,000人となると見込みます。ただし、検査・受診体制が限界となるため、報告数は頭打ちとなる可能性があります。また、今週末までに入院患者数は650-770人に至ると見込まれます(図9)。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

陽性者数 (確定日)
日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数
直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

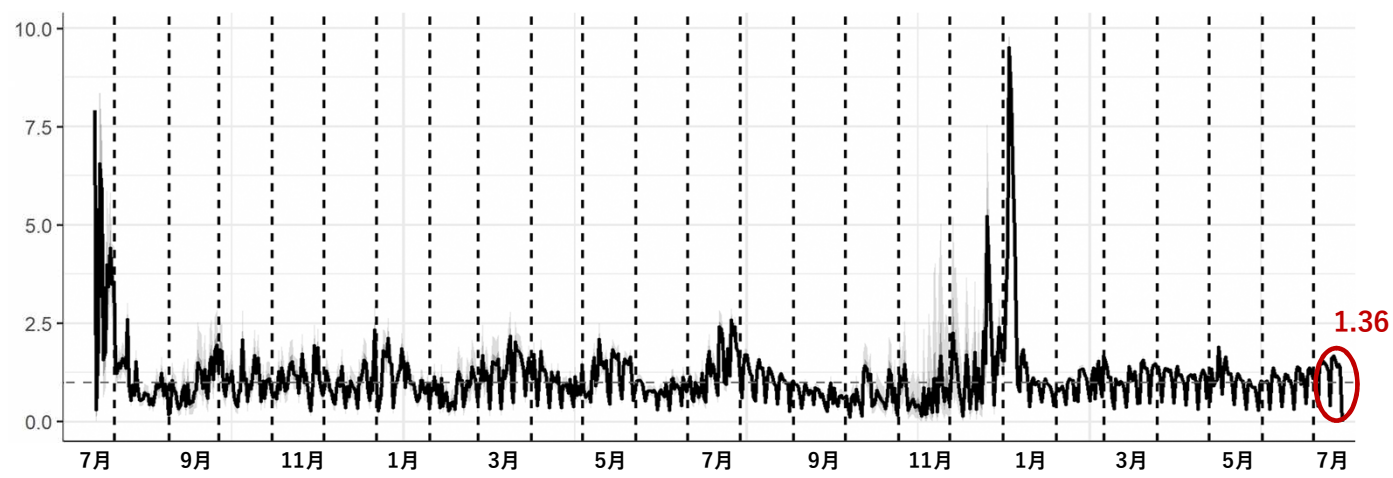


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

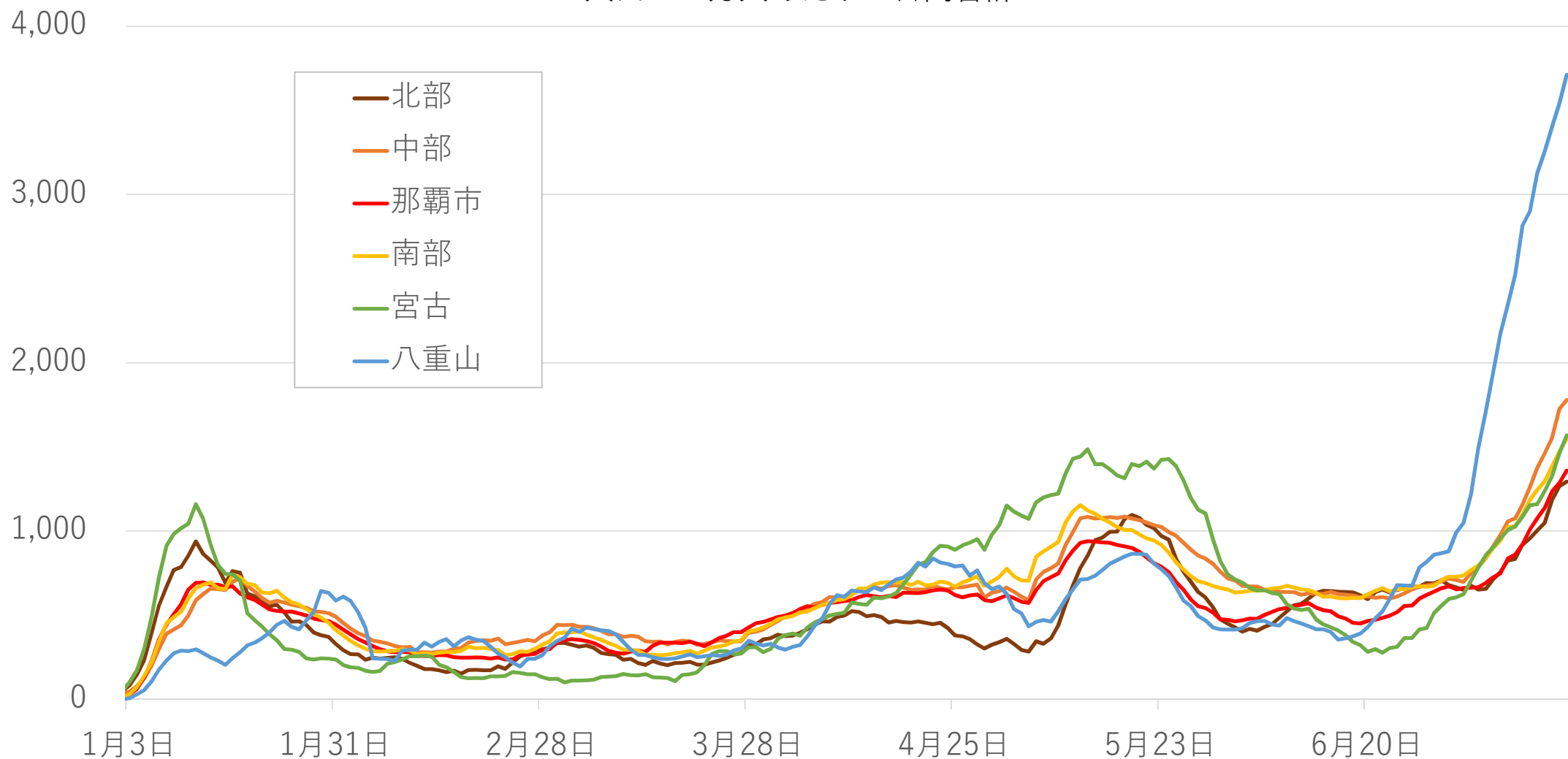


図3 性年齢階級別に見る陽性者数 (7月11日~17日)

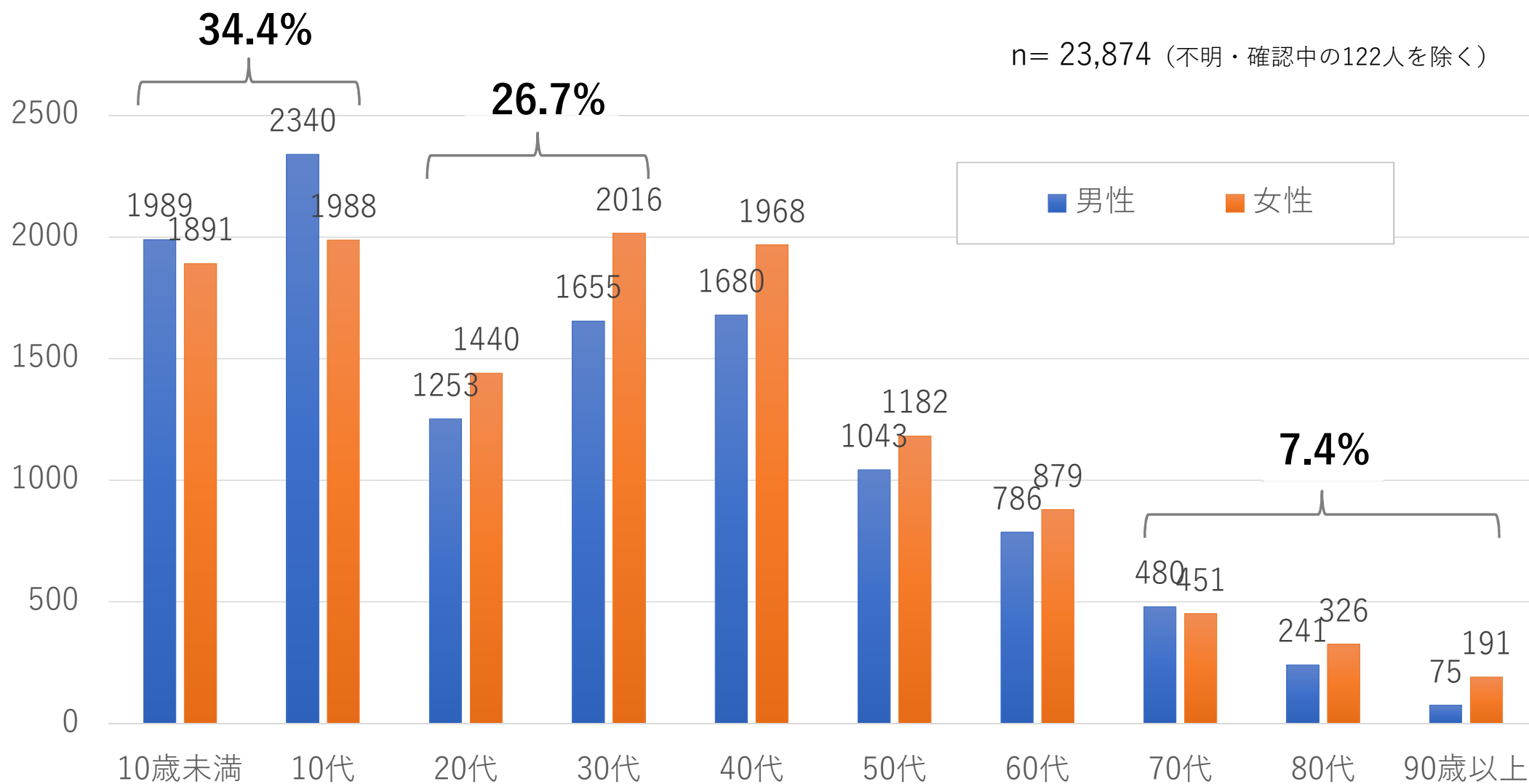


図4 年齢階級別に見る新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

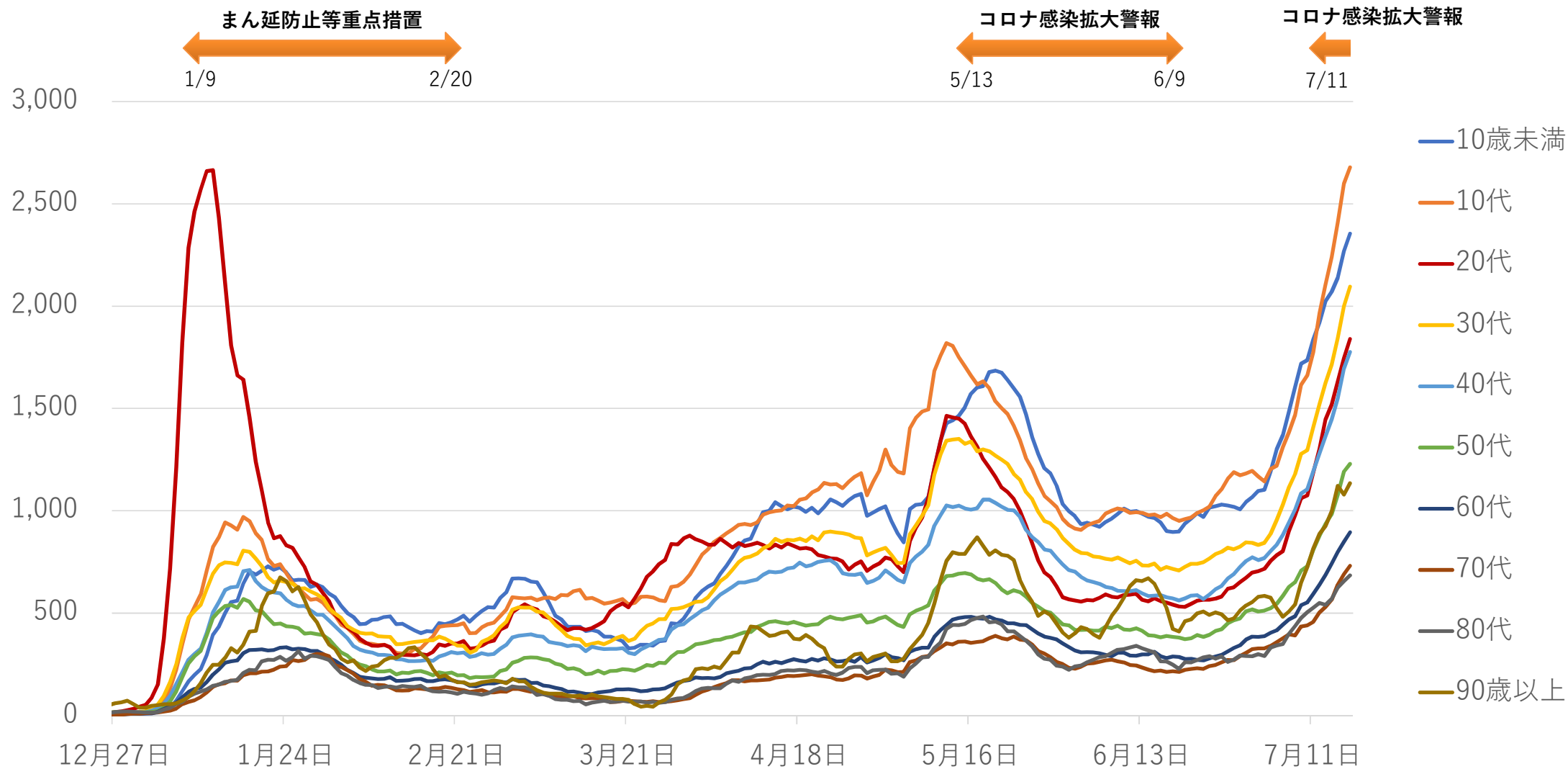


図5 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移（沖縄県）

